

## 産学官によるグローバル人材の育成のための戦略（たたき台）

### 1. 現状と課題

#### 〔社会の現状〕

世界では、政治・経済をはじめ様々な分野でグローバル化が進み、加速度的に進展している。人間が作り上げた技術やシステムにより、ヒト、モノ、カネが国を越えて一層流動する時代を迎える中、地球規模で物事をとらえ、地球上のあらゆる人と協力し、地球規模の平和と幸福を追求することが不可欠となっている。

#### 〔教育の使命と変革の方向性〕

教育は、人が社会の中でよりよく生き、自己実現を図るためのものであるとともに、社会において、その人材が活躍し、その力が最大限発揮されるためのものである。このため、時代の流れとともに変化する社会に合わせ、教育自体も成熟したものとする必要があり、現代のようなグローバル社会の中で、あるいはグローバル化が一層進展する社会を見越し、日本人がグローバルに対応できる力を養うことが求められている。グローバル人材とは、世界的な競争と共生が進む現代社会において、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、広い視野に立って培われる教養と専門性、異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性、新しい価値を創造する能力、次世代までも視野に入れた社会貢献の意識などを持った人間であり、このような人材を育てるための教育が一層必要となっている。

#### 〔日本人留学生の減少と取組の必要性〕

しかしながら、近年、海外留学する日本人学生が減っていること、海外勤務を望まない若手社員が増えていることなどを理由として、日本の若者のいわゆる「内向き志向」が問題視されるようになってきている。実際、日本に留学する外国人留学生の数が増加する一方、外国に留学する日本人学生は減少しており、また、アメリカにおける外国人留学生の国際比較では、インドや中国の留学生が著しく増加する一方、日本人留学生は2000年以降年々減少してきている。更に、海外勤務を希望しない若手社員が2001年度に三割程度だったが、2010年度には五割程度まで増加しているという調査結果もある。しかし「内向き志向」と言っても、それは必ずしも若者の思考のみに起因するものではなく、例えば留学に要する費用の確保が難しくなっていること、早期・長期化する就職活動が学生の留学に対する意欲と機会を失わせていることなど、留学に伴う様々なリスクに起因するものも少なくない。日本の若者の興味や関心を海外に向けさせる工夫とともに、「留学したいが留学できない」という状況を生み出している要因を取り除くことが、グローバル人材の育成を必要とする日本社会の責務と考える。

〔外国人留学生の受入れの重要性〕

また、政府は、グローバル人材の育成と内なる国際化を進めるため、「留学生30万人計画」に基づき、優秀な外国人留学生の確保に取り組んでおり、留学生総数も現在では141,774名を数えるなど着実に進んでいる。しかしながら、外国人留学生を獲得しようとする動きは、日本に限ったことではない。例えば、オーストラリアは、高等教育そのものに商品価値を見だし、外貨獲得のための輸出産業の一つとして、外国人留学生の獲得に取り組んでおり、約100カ所の海外事務所を設置するなど留学生のリクルーティング体制の強化を図っている。また、シンガポールでは、世界トップクラスの高等教育機関の誘致・連携を進めるとともに国際的に著名な研究者の確保に努めるなど、シンガポールを「世界の教育ハブ」とすることを目標に取り組んでいる。優秀な外国人留学生は、日本人学生はもとより社会全体に大きな刺激を与える存在であるとともに、彼らが日本文化に直に触れることで、日本や日本人に対する理解を深め、帰国後においても両国間の架け橋になる存在であると考えられる。諸外国が知識基盤社会における高等教育の重要性を再認識し、国を挙げて外国人留学生の確保に取り組む中、日本も遅れをとることなく、その特色や強みを活かした独自の取組を展開する必要がある。

〔政府の取組の見直し〕

政府は、大学の国際化を推進するため、これまでも国際化拠点整備事業（グローバル30）など各種施策を講じてきているが、残念ながら高等教育における国際化戦略の全体像が明らかではなく、また、個別の事業についても全体戦略の中の位置づけが曖昧になっている。このことが個別施策の意義や効果に関する否定的な意見を誘発しているのも事実である。今後速やかに、グローバル人材育成のための戦略の全体像を明らかにした上で、個別施策の位置づけを確認しながらその効果を最大限引き出すような見直しを行うべきである。

〔産学連携による人材育成の必要性〕

学問には、国境はなく、大学は、その存在自体がグローバルなものである。高等教育の競争・共生の現代にあつては、大学はその生き残りをかけ、より一層、グローバルな魅力ある高等教育を展開し、世界に向けて発信するとともに、日本人留学生の派遣や外国人留学生の受入れの環境整備を進める必要がある。一方、産業界においても、国際的な大競争時代にあつて、日本企業の国際競争力の維持と持続的な発展のため、各企業を支える優秀な人材の確保が急務となっている。グローバル社会、知識基盤社会の中で逞しく生き抜く人材の育成は、教育界と産業界両者に共通する重要課題であり、両者協力の下、グローバル人材の育成に取り組むことが必要となっている。

このような考えの下、本推進会議は、産学官の連携によるグローバル人材育成のための方策について、高等教育とりわけ学部教育に焦点化しながら議論を重ねてきたところであり、以下、具体的方策を取りまとめた。

## **2. 基本方針**

グローバル人材を育成するためには、大学自体が世界に開かれた大学となり、その上で日本人学生の海外留学や外国人留学生の受入れのための体制を整備する必要がある。その際、大学だけの取組では自ずと限界があるため、グローバル人材育成の必要性について同じ意識を持つ産学官（民間・大学・省庁間連携も含む）を通じ、社会全体で高等教育の国際化とグローバル人材の育成に取り組み、教育環境や就職環境など社会構造そのものをグローバル化することが必要である。

このような考えに立って、以下の基本方針を明らかにし、具体的方策について戦略ビジョンとしてまとめることとする。

### **◇ 大学の教育力を磨きつつ世界展開力を強化する**

国内外において魅力ある日本の高等教育を日本人学生及び外国人留学生に提供できるよう、大学の教育力を磨くとともに世界展開するための環境整備を図る。

### **◇ 世界的な学習フィールドで日本人学生を育てる**

日本人学生が海外における留学等の海外経験等を通じてその見識を高め、世界で通用する人材として成長するための環境整備を目指す。

### **◇ 日本の高等教育を世界に発信する**

日本の高等教育を世界に向けて発信し、優秀な外国人留学生を確保するとともに外国人留学生と日本人学生が互いに切磋琢磨するための内なる国際化に向けた環境整備を目指す。

### **◇ グローバル人材育成に合った社会環境に変革する**

産学官が協力し、社会全体でグローバル人材を育成するための環境づくりを行い、社会構造の変革を目指す。

各実施主体は、関係団体等との緊密な連携・協力の下、戦略ビジョンの達成に努める。

## **3. 実施主体**

大学、企業及び国がそれぞれ実施主体となり、相互に連携しつつ、次に掲げる具体的な方策を講じる。

## 4. 具体的方策

### (1) 大学の役割

大学は、自らがグローバル社会に対応した存在となるとともに、教育内容や教育方法を改善し、世界の学生にとって魅力ある高等教育を提供する。また、日本人学生の海外留学を推進するとともに、優秀な外国人留学生を獲得するための環境整備を行う。

#### ①「大学自体がグローバル化するために」

- ・大学組織のグローバル化
- ・教職員の国際化対応能力の向上
- ・9月入学の推進
- ・外国語コースの設定や外国語による授業の推進
- ・学位取得プログラムの確立
- ・優秀な外国人教員の確保
- ・帰国子女枠や留学経験者枠など特別枠の設定
- ・到達目標の設定
  - ： 特定分野の教育において、TOEFL、TOEIC等について何点以上等、語学力の習得を卒業要件とするなど社会的ニーズを踏まえた到達目標の設定
- ・外国の大学づくりへの協力
- ・大学の取組成果の可視化

#### ②「国際的な通用性を確保し、魅力ある教育を提供する」

- ・グローバル人材育成に係る教育理念・方針、方策等の確立
- ・教育達成度を計る手法の確立
- ・教員の指導力強化
- ・教育手法の改善
  - ： チュートリアル・クラス、eラーニング、外国人教員の活用など効果的教育手法の導入
- ・ファカルティ・ディベロップメントの実施
- ・外国の大学との連携教育プログラムの実施
- ・外国の大学づくりへの支援
  - ： ゼミ形式授業など特色ある教育手法の提供等による外国の高等教育の支援。
- ・リカレント教育の充実
  - ： 産学連携によるプログラム開発、民間企業からの寄附講座の拡充

#### ③「日本人学生の海外留学を後押しする」

- ・実用的な外国語教育の実施
  - ： 参加型・対話型・課題解決型の授業、外国人教員の活用、TOEFL、TOEIC等の活用
- ・留学成果の可視化
- ・交換留学制度の拡充
- ・短期海外体験制度の整備
- ・大学独自の奨学金制度の充実
- ・留学支援のための体制整備
  - ： 情報提供体制や相談体制の充実、就職支援の充実、留学生データベースの整備
- ・外国人留学生との交流機会の拡充

#### ④「優れた外国人留学生を獲得する」

- ・魅力ある教育プログラムの設定
  - ： 教育内容、指導教員、指導体制等の充実
- ・外国語コースの設定（再掲）
- ・学位取得プログラムの確立（再掲）
- ・日本語教育の充実
  - ： 渡日前の海外事務所における事前指導の充実、大学における日本語教育の充実、優れた教員の確保
- ・大学独自の奨学金制度の充実
- ・留学支援のための体制整備
  - ： 渡日前の海外事務所における相談、訪日後の生活・教育相談の体制の充実、保護者相談の体制の充実、生活・学習・就職の支援体制の充実、外国人留学生OB会の整備、外国人留学生に関するデータベースの整備
- ・外国人留学生用の宿舎の整備
- ・日本人学生との交流機会の拡充

## (2) 企業の役割

社会全体で優秀な人材を育成するという観点から、企業は、学生の学業への専念を促すとともに、大学のグローバル人材育成に係る取組や学生の留学等について支援する。また、学生採用のグローバル化を進め、日本人学生及び外国人留学生の留学等の環境づくりに協力する。

### ①「企業の採用環境を変革する」

- ・採用活動の早期化・長期化の是正
- ・採用スケジュールの弾力化・複線化

： 「Gap Year」 への支援、通年採用の制度的導入

- ・ 留学経験者等の積極的採用
- ・ 留学等の異文化体験に対する企業評価の明確化
- ・ 語学水準など採用基準の明確化
- ・ 内定者の留学支援
- ・ 外国人採用の場合のキャリアパスの整備

#### ② 「日本人学生の海外留学を支援する」

- ・ 奨学金等による資金援助
- ・ 現地支援ネットワークの構築
- ・ 現地法人インターンシップ機会の提供（長中短期）
- ・ 企業が必要とする人材像（専門、キャリア等）の明確化

#### ③ 「外国人留学生の日本留学を支援する」

- ・ 奨学金等による資金援助
- ・ 外国人留学生のための宿舎提供
- ・ 国内法人インターンシップ機会の提供（長中短期）
- ・ 海外支社等における日本留学に関する情報提供

#### ④ 「頑張る大学を支援する」

- ・ グローバル人材育成のための寄附講座等の設置  
： 特定分野における教育、インターンシップ、留学、採用などパッケージ化した教育プログラムの実施
- ・ 正規授業等への講師派遣などにより大学の取組を支援

### (3) 国の役割

国は、高等教育外交戦略の展開の必要性を認識した上で、日本人学生の受入れ先を開拓するとともに優秀な外国人留学生を獲得するため、地域・国別、専門分野等を考慮した戦略的な取組を展開する。また、オールジャパンとしての取組を進める観点から、産学官の円滑な連携環境を整備するとともに、大学の先進的な取組を支援してその効果を全国的に還元する。

#### ① 「高等教育外交を展開する」

- ・ 高等教育外交の戦略モデルの確立  
： 地域・国別、専門分野、学部・大学院、期間、派遣・受入などについて、国としての基本方針を確立。
- ・ 外国の大学と日本の大学の連携強化の推進  
： 国内主要大学への外国人留学生の受入れ、海外主要大学への日本人学生の派遣、国内大学間ネットワークと海外大学とのマッチングなど大学間交流への支援。大学間交流を推進するために、単位互換

の在り方等交流推進のための方策の検討。

- ・海外主要大学との教育プログラムにおける連携
  - ： 海外主要大学との間において、大学の誘致、ダブルディグリー等の活用、教員交流（著名研究者の招聘と特別集中講座の実施等）等を促進し、海外主要大学の教育プログラムを日本人学生に提供する機会を確保。
- ・海外における大学づくりの支援

## ②「産学官連携の環境を整備する」

- ・産学官連携プラットフォームの構築
  - ： 産学官の共同により、グローバル人材育成の進捗状況を把握しつつ、懸案事項を整理・解決するため、恒常的な会議体などの産学官プラットフォームを構築。
- ・グローバル人材育成のための省庁間連携の推進
  - ： 成長戦略実現会議をはじめ関係省庁との連携を推進し、グローバル人材育成をオールジャパンとして推進。

## ③「グローバル化推進事業を推進する」

- ・高等教育のグローバル化の核づくり
  - ： 機能別拠点大学を整備し、i) 具体的取組の支援、ii) 先導的モデルの開発研究、iii) 先導的モデルの共有化を行うとともに、拠点大学を核としたネットワークを構築。
- ・世界展開を図るための仕組みづくり
  - ： 日本の大学の世界展開力を強化するため、アジアやアメリカなど戦略的重点地域における高等教育ネットワークを構築。
    - （視点1）アジアにおける戦略的展開
    - （視点2）アメリカにおける戦略的展開
- ・学生の異文化体験機会の充実（「内向き思考」からの脱却）
  - ： 日本人学生の異文化理解を促進するとともに留学に対する関心を高めるため、短期留学機会を充実。また、外国人留学生の日本理解を促進し、日本の大学への留学に対する関心を高めるため、短期留学機会を充実。
- ・留学生に対する奨学金制度の充実
  - ： 外国人留学生の日本留学や日本人学生の海外留学を支援する奨学金の拡充。
- ・留学に対する学生のモチベーションの維持・向上
  - ： 優秀な留学生に対する顕彰制度を創設。

## ④「グローバル化推進事業を改善する」

- ・事業の効果的・効率的な実施

： 大学が本来実施すべき業務との区別の明確化、事業目的と手段の関係の明確化、効果的・効率的実施等の観点から見直し。具体的な方向性は、別紙のとおり。

#### ⑤「初等中等教育と高等教育の連携を推進する」

- ・ 小学校から大学まで一貫性のある外国語教育プログラムの研究・開発
  - ： 初等中等教育において実用的、実践的な外国語教育が小学校から大学まで一貫して行われるよう、効果的な教育プログラムの研究・開発を促進。
- ・ 異文化体験に係る連携協力の強化
  - ： 初等中等教育における学生・生徒の異文化体験機会を充実させるため、大学やABIC等の民間団体との連携強化を推進。
- ・ 教員養成・教員研修プログラムの研究・開発
  - ： 初等中等教育におけるグローバル化を推進するため、教員養成段階における異文化体験機会を充実するとともに、実用的、実践的な外国語教育が行われるよう教育委員会と大学が連携を図るなど教員研修の充実を促進。
- ・ 大学入学者選抜試験の改善
  - ： 外国語の大学入学者選抜試験について、外国語のコミュニケーション能力を測る内容に改善を図る大学に支援を行ったり、国際バカロレアやTOEFL、TOEIC等の英語資格試験の積極的活用等を推進したりすることなどにより、グローバルな学生の受入れを促進。
- ・ 帰国子女などの海外経験者の能力伸長
  - ： 海外生活を経験した帰国子女について、特別選抜の拡大や特別コースの設定などにより、海外で培った語学力や国際感覚を維持・向上させる教育を実施。
- ・ 初等中等教育と高等教育の連携のための推進機関の設置

## 5. その他

本戦略ビジョンは、まずは平成23年度事業計画の立案や、その後の事業展開に適切に反映させるとともに、平成24年度以降の新しい取組にも反映させる必要がある。各実施主体がそれぞれの改革についてスピード感をもって進めるとともに、毎年度、事業についての検証・評価を行い、その結果を公表することが重要である。



(別紙)

## 国が実施するグローバル化推進事業の見直しの方向性について

### 1. 大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業

#### 【基本コンセプト】

- ・ 13大学と国際化に積極的な大学のネットワーク化、コンソーシアム化を図り、形成された教育資源・成果の共有・普及
- ・ 英語コース開設要件の見直しと経費の使途の弾力化
- ・ メリハリをつけた支援の実施 等

#### 【改善ポイント】

- ・ 教育プログラムにおける他大学との連携、教育資源の共有
- ・ 産業界と連携した教育プログラムの構築、連携体制の構築
- ・ 学部と大学院双方での英語コース必置の見直し
- ・ 日本人学生の英語コースへの積極的な受講
- ・ 平成23年度における厳格な中間評価の実施とその反映 等

### 2. 大学の世界展開力強化事業

#### 【基本コンセプト】

- ・ 選抜対象・方法等の見直し
- ・ 単価の見直しによる経費節減等の推進

#### 【改善ポイント】

- ・ 日中韓政府が検討を進める質の保証を伴った大学間交流ガイドラインを踏まえ、学位プログラムの形成、大学教育情報の発信など、教育改革のモデルとなるプログラムを選定
- ・ 専門性の高い第三者機関による審査、透明度の高いモニタリング
- ・ 既に取り組を開始し、熟度の高い検討が進められているものを対象

### 3. ショートビジット・ショートステイ

#### 【基本コンセプト】

- ・ 米国やアジア地域との交流を重点的に支援し、日本人学生の海外派遣の潮流を形成
- ・ 単位付与を可能とするプログラムの開発、その後海外への再度の留学に挑戦するような意識付けを狙うプログラムを評価



# 産学官によるグローバル人材の 育成のための戦略（概要） （たたき台）

産学連携によるグローバル人材育成推進会議

# 現状と課題

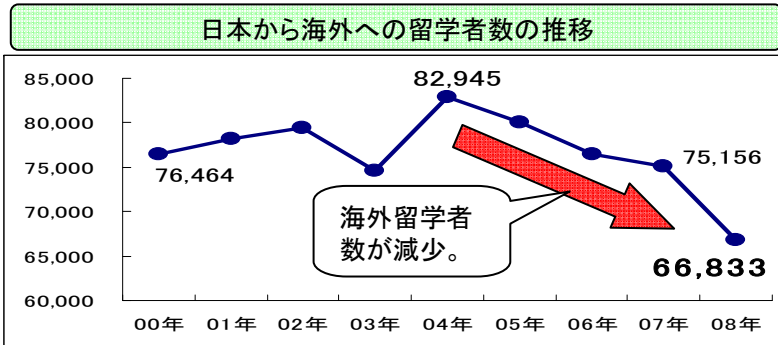
## 現状と課題

政治・経済をはじめ様々な分野でのグローバル化

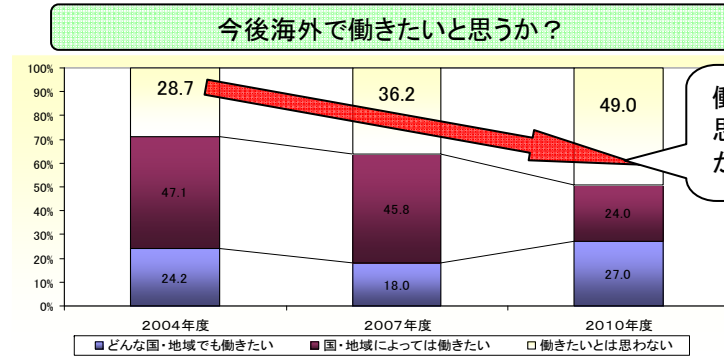
諸外国の高等教育の国際化  
例) オーストラリア、シンガポール

若者のいわゆる「内向き志向」

※若者のいわゆる「内向き志向」



(出典) ユネスコ文化統計年鑑、OECD「Education at a Glance」、IIE「Open Doors」、中国教育部、台湾教育部



(出典) 第4回新入社員グローバル意識調査(学校法人産業能率大学)

## グローバル社会、知識基盤社会の中で逞しく生き抜く人材の育成が重要課題！！

### グローバル人材とは・・・

世界的な競争と共生が進む現代社会において、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、広い視野に立って培われる教養と専門性、異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性、新しい価値を創造する能力、次世代までも視野に入れた社会貢献の意識などを持った人間

### グローバル人材を育成するために・・・

- ◇ 国は、速やかにグローバル人材育成のための戦略の全体像を明らかにした上で、個別施策の位置づけを確認しながらその効果を最大限引き出すような見直しを行うべき
- ◇ 大学は、一層グローバルな魅力ある高等教育を展開し、世界に向けて発信するとともに、日本人留学生の派遣や外国人留学生の受入れの環境整備を進めることが必要
- ◇ 教育界と産業界両者の協力の下、グローバル人材の育成に取り組むことが必要

## 基本方針

- グローバル人材を育成するためには、大学自体が世界に開かれた大学となり、日本人学生の海外留学や外国人留学生の受入れのための体制を整備することが必要。
- 産学官を通じ、社会全体で高等教育の国際化とグローバル人材の育成に取り組み、教育環境や就職環境など社会構造そのものをグローバル化することが必要。

- ◇ **大学の教育力を磨きつつ世界展開力を強化する**  
国内外において魅力ある日本の高等教育を日本人学生及び外国人留学生に提供できるよう、大学の教育力を磨くとともに世界展開するための環境整備を図る。
- ◇ **世界的な学習フィールドで日本人学生を育てる**  
日本人学生が海外における留学等の海外経験等を通じてその見識を高め、世界で通用する人材として成長するための環境整備を目指す。
- ◇ **日本の高等教育を世界に発信する**  
日本の高等教育を世界に向けて発信し、優秀な外国人留学生を確保するとともに外国人留学生と日本人学生が互いに切磋琢磨するための内なる国際化に向けた環境整備を目指す。
- ◇ **グローバル人材育成に合った社会環境に変革する**  
産学官が協力し、社会全体でグローバル人材を育成するための環境づくりを行い、社会構造の変革を目指す。

大学、企業及び国は、関係団体等との緊密な連携・協力の下、戦略ビジョンの達成に努める

## 具体的方策（大学の役割）

大学は、自らがグローバル社会に対応した存在となるとともに、教育内容や教育方法を改善し、世界の学生にとって魅力ある高等教育を提供する。また、日本人学生の海外留学を推進するとともに、優秀な外国人留学生を獲得するための環境整備を行う。

### ①大学自体がグローバル化するために

例) 大学組織のグローバル化、教職員の国際化対応能力の向上、9月入学の推進、外国語コースの設定や外国語による授業の推進、優秀な外国人教員の確保、到達目標の設定、外国の大学づくりへの協力、大学の取組成果の可視化 等

### ②国際的な通用性を確保し、魅力ある教育を提供する

例) グローバル人材育成に係る教育理念・方針、方策等の確立、教育手法の改善、外国の大学との連携教育プログラムの実施、外国の大学づくりへの支援 等

### ③日本人学生の海外留学への後押しをする

例) 実用的な外国語教育の実施、留学成果の可視化、交換留学制度の拡充、短期海外体験制度の整備、大学独自の奨学金制度の充実、留学支援のための体制整備、外国人留学生との交流機会の拡充 等

### ④優れた外国人留学生を獲得する

例) 魅力ある教育プログラムの設定、日本語教育の充実、大学独自の奨学金制度の充実、留学支援のための体制整備、日本人学生との交流機会の拡充 等

## 具体的方策（企業の役割）

社会全体で優秀な人材を育成するという観点から、企業は、学生の学業への専念を促すとともに、大学のグローバル人材育成に係る取組や学生の留学等について支援する。また、学生採用のグローバル化を進め、日本人学生及び外国人留学生の留学等の環境作りに協力する。

### ①企業の採用環境を変革する

例) 採用活動の早期化・長期化の是正、採用スケジュールの弾力化・複線化、留学経験者等の積極的採用、留学等の異文化体験に対する企業評価の明確化、語学水準など採用基準の明確化、内定者の留学支援 等

### ②日本人学生の海外留学を支援する

例) 奨学金等による資金援助、現地支援ネットワークの構築、現地法人インターンシップ機会の提供(長中短期)、企業が必要とする人材像(専門、キャリア等)の明確化

### ③外国人留学生の日本留学を支援する

例) 奨学金等による資金援助、外国人留学生のための宿舎提供、国内法人インターンシップ機会の提供(長中短期)、海外支社等における日本留学に関する情報提供

### ④頑張る大学を支援する

例) グローバル人材育成のための寄附講座等の設置、正規授業等への講師派遣などにより大学の取組を支援

## 具体的方策（国の役割）

国は、高等教育外交戦略の展開の必要性を認識した上で、日本人学生の受入れ先を開拓するとともに優秀な外国人留学生を獲得するため、地域・国別、専門分野等を考慮した戦略的な取組を展開する。また、オールジャパンとしての取組を進める観点から、産学官の円滑な連携環境を整備するとともに、大学の先進的な取組を支援してその効果を全国的に還元する。

### ①高等教育外交を展開する

例) 高等教育外交の戦略モデルの確立、外国の大学と日本の大学の連携強化の推進、海外主要大学との教育プログラムにおける連携、海外における大学づくりの支援

### ②産学官連携の環境を整備する

例) 産学官連携プラットフォームの構築、グローバル人材育成のための省庁間連携の推進

### ③グローバル化推進事業を推進する

例) 高等教育のグローバル化の核づくり、世界展開を図るための仕組みづくり、学生の異文化体験機会の充実、留学生に対する奨学制度の充実 等

### ④グローバル化推進事業を改善する

例) 事業の効果的・効率的な実施

### ⑤初等中等教育と高等教育の連携を推進する

例) 小学校から大学まで一貫性のある外国語教育プログラムの研究・開発、大学入学者選抜試験の改善、教員養成・教員研修プログラムの研究・開発 等

## その他

○本戦略ビジョンは、平成23年度事業計画の立案、事業展開や、平成24年度以降の新しい取組にも反映させることが必要

○毎年度、事業についての検証・評価を行い、その結果を公表することが重要

## 産学連携によるグローバル人材育成推進会議 委員名簿

|    |       |                           |
|----|-------|---------------------------|
|    | 市村泰男  | 社団法人日本貿易会常務理事             |
|    | 伊藤元重  | 東京大学大学院経済学研究科教授           |
| 座長 | 河田悌一  | 日本私立学校振興・共済事業団理事長         |
|    | 岸本治   | ソニー株式会社グローバル人材開発部門部門長     |
|    | 白石隆   | 政策研究大学院大学教授、内閣府総合科学技術会議議員 |
|    | 土居丈朗  | 慶應義塾大学経済学部教授              |
|    | 新浪剛史  | 株式会社ローソン代表取締役社長           |
|    | 谷内正太郎 | 東京電力株式会社顧問                |
|    | 涌井洋治  | 日本たばこ産業株式会社取締役会長          |